

農業担い手メールマガジン（第106号）

インデックス

現場の皆さんへ ～食料自給力の向上～

事業活用のポイント

～農業機械・施設の融資残補助と直売所等の設置補助事業に関する要望調査～  
担い手のための耳寄り新技術 ～飼料イネの生産・給与技術～

現場の皆さんへ ～食料自給力の向上～

皆さん、明けましておめでとうございます。本年も農業担い手メールマガジンをどうぞよろしくお願いいいたします。

さて、今回は「食料自給力」のお話しです。食料の多くを海外に依存しているわが国では、将来にわたって食料の安定供給を確保する必要があります。このため、「食料自給力」すなわち国内農業の生産力を高め、現在、カロリーベースで40%である食料自給率を向上させていかななくてはなりません。

この際に重要になるのが、農地や農業用水などのインフラ整備に加え、有能な農業者の育成、高度な生産技術の開発などです。これらの現状を分析し、実効ある対策を講じていくことが食料供給力の向上につながり、結果として食料自給率を高めることになると考えています。

まず第一に、最も基礎的な生産基盤である農地は、現在、耕地面積の減少や耕作放棄地の増加などの深刻な課題を抱えています。このため、農地については、転用規制を強化して優良な農地を確保するとともに、貸借を通じた農地の有効利用や意欲ある担い手への面積集積を促進していく必要があります。

第二に、農業の担い手については、地域農業を先導する熱意のある農業経営者を確保するとともに、各種の支援策を進めながら、農業経営者としての経営能力を高めていかななくてはなりません。また、就農に関する相談や研修を強化することにより、農業に新しい風を吹き込む若者支援を強化することと併せて、高齢化した担い手の次世代へのスムーズな承継を進めることも重要です。

第三に、わが国の貴重な食料生産装置である水田をフル活用することも重要です。これは、自給率の低い麦・大豆などの生産拡大にもつながりますし、米粉や飼料向けの新規需要米を本格的に生産していく上でも必要なことと考えられます。

われわれ経営政策課では、食料自給力を高めるために、農業の担い手の皆さんが自由な発想で経営展開できる環境を整えるべく、今後とも努力していく必要があると考えています。皆さんも、地域農業や日本農業の将来を支えるため、ともに頑張ってい

きましょう。

ご意見・ご質問は下記へお願いいたします

[https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM\\_NO=120](https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=120)

### 事業活用のポイント

～ 農業機械・施設の融資残補助と直売所等の設置補助事業に関する要望調査～

農林水産省では、第2次補正予算の一環として、認定農業者や集落営農組織など担い手の皆さんを対象に、農業機械・施設等の融資残の自己負担部分に関する追加支援と、直売所や加工施設などの共同利用施設の導入に対する支援を緊急に実施します。

このたび、この事業について、下記のとおり要望調査を行うこととなりましたのでご案内いたします。

事業名： 地域雇用拡大型農業経営確立緊急対策事業

支援対象：

< 融資主体型補助事業 >

認定農業者、認定志向農業者、集落営農組織、特定法人、これらの者が組織する団体など、担い手の皆さん

< 共同利用施設補助事業 >

市町村やJA、農業者の皆さんが組織する団体等

要件：

- (1) 両事業は一体的に実施する必要があります
- (2) いずれの事業も、地域農業の活性化の方向性及び成果目標等を取りまとめた「地域雇用拡大型農業経営確立計画」を作成する必要があります（「地域雇用拡大型農業経営確立計画」は、本事業の実施に際し、地域担い手育成総合支援協議会が作成する計画です）

補助率・支援方法：

< 融資主体型補助事業 >

機械及び施設等取得額の3/10を上限に、事業実施主体である地域担い手育成総合支援協議会から支援対象の認定農業者等に助成金が交付されます

< 共同利用施設補助事業 >

施設整備費の1/2以内(一部、1/3の場合有り)を上限に、国から事業実施主体に直接助成金が交付されます

総事業費： 9億3千5百万円

要望調査期間： 平成20年12月22日(月)～平成21年1月23日(金)

本事業は、経営発展を目指す担い手の皆さんに大きなメリットがある事業ですので、是非ともご活用いただきたいと思います。詳しい内容については、最寄りの地方農政局にお問い合わせ下さい。

要望調査の内容については、以下のURLをご参照下さい。

[http://www.maff.go.jp/soshiki/koukai/kaizenziguyou/management/koyo\\_kaku](http://www.maff.go.jp/soshiki/koukai/kaizenziguyou/management/koyo_kaku)

## 担い手のための耳寄り新技術

## ～ 飼料用イネの生産・給与技術～

2009年は丑年ということもあり、今回は、干支にちなんだ牛の飼料に関する新技術を紹介したいと思います。

ご存知のように、わが国の畜産業は輸入飼料に依存した生産体系になっています。国産飼料を増産するためには、水田等における効果的な飼料作物の生産を推進することが重要です。そこで、耕種農家、畜産農家の耕畜連携向けに、稲発酵粗飼料（イネホールクロップサイレージ〈イネWCS〉）の専用品種とその生産・給与技術を農業・食品産業技術総合研究機構などが開発しました。

飼料用イネについては、様々な品種が各地域で育種され、栽培適地は北海道から九州までほぼ全国に広がっています。また、機械についても、飼料用イネの収穫・細断・ロール成形が可能な「自走式細断型飼料用イネ専用収穫機」が市販化されました。このため、効率的な飼料用イネ生産は全国で可能となり、飼料自給率の向上と資源循環型畜産の推進が期待されます。

イネWCSとは、イネの籾だけでなく茎葉も含めて収穫し、サイレージ発酵させたものです。

各技術の主な特徴は次の通りです。

### イネWCS向けのイネ品種

北海道「きたあおば」、東北中北部「べこごのみ」、東北中部以南「べこあおば」等、関東以西「たちすがた」、「モミロマン」等、九州「タチアオバ」等、それぞれの地域条件に応じた専用品種が育種され、全国各地で飼料用イネの生産が可能になりました。

### 飼料用イネの収穫機（WCS調製）

平成20年から最新の自走式細断型飼料用イネ専用収穫機が市販化され、定価は約1,100万円程度となっています。この機械は、飼料用イネを細断することで穂先と株元を混合攪拌でき、高密度なロールペールを成形できる点が特徴です。また、高品質な稲発酵粗飼料の調製が可能のため、牛の食い込みも良好です。なお、この機械は、生産組織やコントラクターなどの単位で導入することが想定されています。

### イネWCSの給与効果

収穫適期とされる黄熟期に収穫されたイネWCSの平均的な飼料成分含量は、粗タンパク質7%、粗脂肪3%、中性デタージェント繊維（NDF）48%、酸性デタージェント繊維（ADF）31%、可溶性無窒素物（NFE）51%、灰分13%です。消化試験では輸入チモシーと同程度の栄養価と評価されています。また、イネWCSは、

- （1）牛の嗜好性が優れている
- （2）肥育牛へ給与すると、イネWCSはビタミンEを多く含んでいるため、肉色の退化や脂質の酸化が抑制される

などの特徴を有しています。一方、繁殖牛に利用する場合は、粗タンパク質含量が低いことから、大豆粕やイタリアンライグラス乾草と組み合わせて利用する必要があります。

ます。

なお、飼料用イネの生産や牛への給与方法については、各地域の状況に合わせて様々な情報が提供されています。飼料自給率の向上と資源循環型畜産の推進のためにも、是非ともご活用いただきたいと思います。

「イネWCS」の詳細は、以下の技術マニュアルをご覧ください

<http://souchi.lin.go.jp/skill/report/01.html>

飼料用イネに関する当技術については、以下にお問い合わせ下さい

<https://form.affrc.go.jp/nilgs-naro/inquiry/form.html>

(独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所 企画管理部  
業務推進室長宛、〒305-0901 茨城県つくば市池の台2、TEL:029-838-8618)

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

本年は、新しい食料・農業・農村基本計画の策定や農地政策改革の具体化のほか、水田フル活用の取組元年と位置づけられるなど、農政における新たな取組が求められる年です。また、昨年末からは、非正規雇用問題に関連して、農業が新たな雇用の場として見直されつつあります。

担い手の皆さんとともに、日本農業の再生に向けて力を尽くしていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

連日厳しい冷え込みが続いていますが、皆さんもお体にお気をつけになって、今年も一年、お仕事頑張ってください。 (S)

電子出版：農業担い手メールマガジン

発行日：毎月2回発行

発行元：農林水産省経営局経営政策課 担当：鈴木

農林水産省担い手ホームページもご覧ください！

～担い手への支援策、認定農業者数等、担い手情報満載！！～

<http://www.maff.go.jp/j/ninaite/index.html>

このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから

<http://www.maff.go.jp/ninaite/mailmagazine.html>

このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>